

雪みちを歩く

札幌雪みちガイド

札幌の雪みちの歩き方や服装など、冬の札幌を楽しく観光するために役立つ情報を紹介!

転ばない さっぽろウインターライフ推進協議会

札幌の冬。

雪の多い札幌では、さまざまな雪みちがあることを知っていますか?

雪みちの歩き方があるのを知っていますか?

このパンフレットでは、

雪についてのちょっとしたお話と、

札幌の人の雪みちの歩き方を紹介しています。

雪のこと、雪みちのことを知ると、

冬の札幌をもっと楽しく過ごすことができますよ。



❄️ 雪はなぜ白いの?

雪は、もともと透明な氷です。なぜ白く見えるのかというと、雪結晶の表面にある多数の細かい凹凸に光が乱雑に反射するからなんです。透明なガラス板を粉々に砕くと白く見えることと同じ理由です。



❄️ 変化する雪

真冬に降る雪は、とっても軽くてフワフワとしています。しかし、降った場所や気温によって雪はさまざまに変化します。例えば、スキー場に降った雪はパウダースノーと言われフカフカしていますが、街中に降った雪は、気温の変動や、車や人に踏み固められてガチガチの固い雪になります。



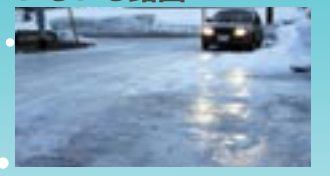
❄️ 雪は、さまざまな道をつくる

ざらめ雪



雪が融け始めた時に人や車でかき混ぜられると、ざくざくした砂糖の「ざらめ」のような雪になります。

つるつる路面



雪が融けて凍った路面を人や車が通ると、磨かれてスケートリンクのような状態になります。

そろばん道路



「そろばん」の玉のような雪のコブがたくさんできることがあります。

ブラックアイスバーン



一見濡れているように見えますが、路面は氷の膜が薄くはった状態になっています。

いろいろな雪みちの中には、滑って転びやすい道があるんだ。ぼくたちも、滑りやすい道や場所には注意して歩いているんだよ。そんな僕たちの雪みちの歩き方について紹介するね。

僕たちも、滑りやすい場所には気を付けているんだ。

雪国の人たちは、歩き方も工夫しているよ。

1 「横断歩道」
渡りはじめと終わり部分は、凹凸や段差があり滑りやすくなっています。また、白線の上も薄い氷の膜ができてしまうので要注意です。

3 「タイル張りの地下街や建物」
靴底や靴のアタッチメントに、雪や氷が付いたままで地下街や建物に入ると滑りやすくなるので要注意です。

2 「ロードヒーティングなどの切れ目」
ヒーティング区間のある所とない所や、地下からの出入り口付近では段差が発生しやすく、滑りやすい状態になります。

4 「バスやタクシーの乗り場」
バスやタクシーの乗降場所は、人や車で雪が踏み固められ滑りやすくなります。

1 路面を良く見て歩く
路面が乾いているように見えても、薄く氷がはっていたり、新しく降り積もった雪でつるつる路面が隠れている場合があるので、いつも注意して歩きます。

ひと口メモ 滑らないように見えても、注意して歩こう! 夜は特に注意しよう!

3 小さな歩幅でそろそろ歩く
見るからに滑りそうな道や、凍った路面の上にと雪が積もったような所では、歩幅を小さくしてそろそろ歩きます。

ひと口メモ 特に、滑りやすい交差点や横断歩道を歩く時におすすめ。

2 靴の裏全体を路面につけて歩く
つるつる路面では、重心をやや前におき、できるだけ足の裏全体を路面につける気持ちで歩きます。

4 急がず、焦らず、余裕を持って歩く
いくら歩き方を理解したつもりでも、急いでいる時は忘れがちに。時間に余裕を持って、急がず、焦らず歩くことが基本です。

ひと口メモ 持ち物がある場合は、バッグよりも両手が自由になるリュックがおすすめ。

10分前には着くかな...

夏靴 雪国に暮らす人たちは、冬用の靴(冬靴)を持っています。「冬靴」は、滑りにくい加工(靴底に柔らかいゴムを使ったり、滑り止め材を混ぜたり等)がされていて雪みちで転びにくく、防寒性や防水性にも優れています。もちろん、このような加工のされていない靴も持っていますが、これらを「冬靴」と区別して、「夏靴」と呼んでいます。冬の滑りやすい雪みちを、雪国の人たちは「冬靴」を履いて転ばないように気を付けているんです。

冬靴